# 諢話浮世風呂初編 下

へ13
4314

N13
4314



真田氏
寛政重修
新四郎

# 午後の光景

江戸 式亭三馬 戯編

通番

○御膳(ごぜん)を菊(きく)まいらく 子供大勢ワもそよ寒も墨だらけのでくふのう目ざるひらひらてどやくとくとくへ

ありやうちんぐりやんこ。あつちやアやんこ。ワるくく オごぜんもうしざア

もよめんそ着(ぢゃく)ざゼ。ぬつ寝(ね)ざア。あしく狂(だ)。ゆうくん忠義(ちうぎ)とうく。極(ごく)ぶしもさうざやア

放(ほう)へうな。能(よ)うござりやすぜへ。ア」よう物(もの)よ。着物が切(きり)ると思(おも)へつくく

もうくしとうへ。ぬつ人(と)ゑへ。ぬのかくえへ後(あと)ちやア善(ぜん)公(こう)。松(まつ)どのごぜん後(あと)よのさ

<2002-217>

甚「ヲヤ〳〵もうんの口切着だ。其時出ぢ。あさうべざらう。アレヨ、おやの
仮「ヲヤ」
因へ家をでまさア。松「おらんアだ面見男あの
通ア能う喧嘩をせるぞ。吉「ごりやう見しやうだ。おやんアまん
どうき。まんぢゆうぢゅ。甚「湯へ這入う。誰でも早く這入る者ハ能さだッ。
「ヲヤ」「ヲヤ」「ヲヤ」
ゆうよろさうの。あの奥お仏さ居ハの。
そんなう今ごろおめさア遊れ豆。「ヲヤ」おそく迄でも能。金さんと幸
さんと芝居支度をさア。石陰乃占八成功が能うも移ヨ「ヲヤ」
そんなう物うもまんぢ入移ヨ「ヲヤ」おめハ捕人ぶ成る「ヲヤ」おりうアだ

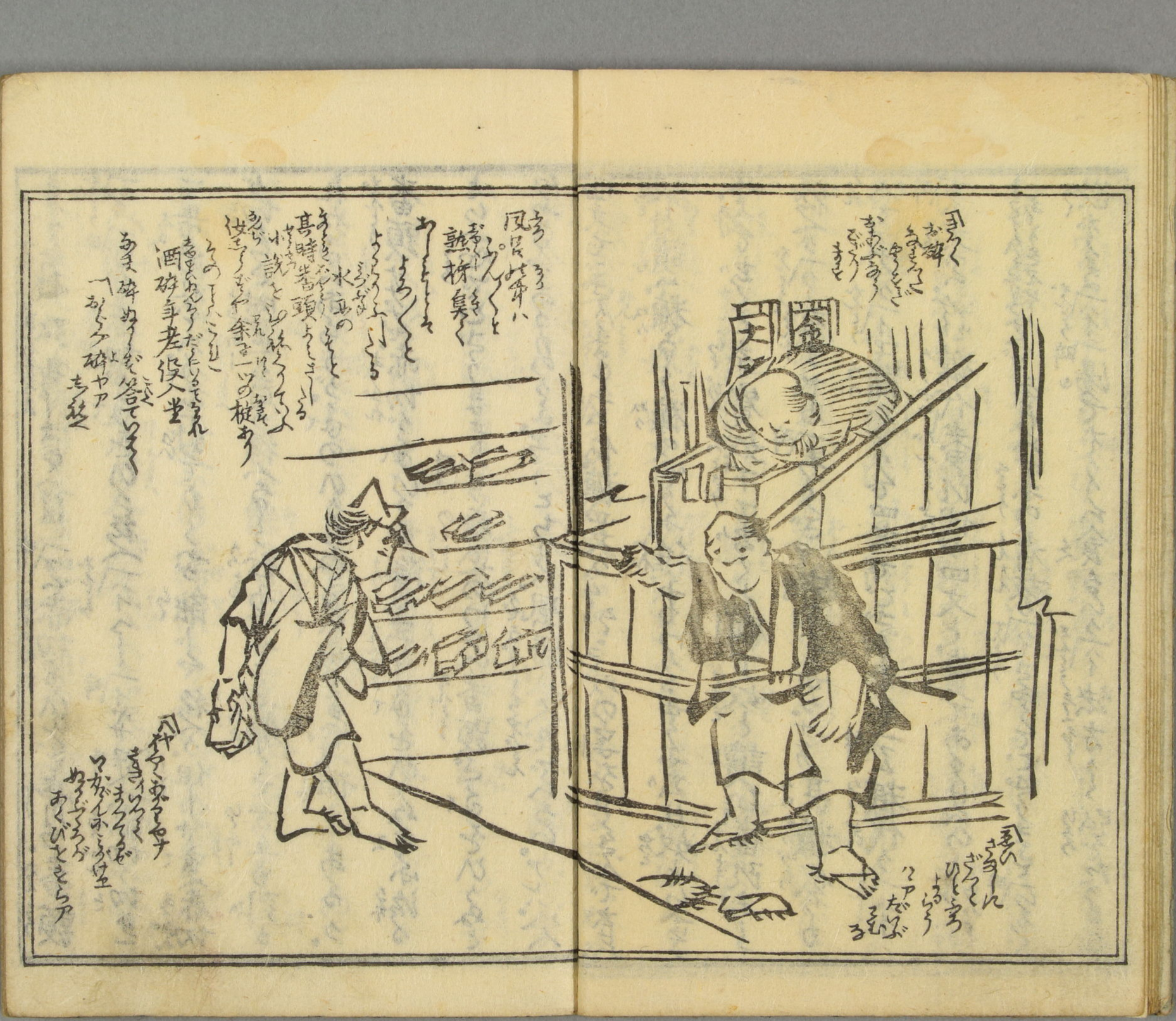
「ヲヤ」「ヲヤ」「ヲヤ」「ヲヤ」
そんな居移ヨおめ人材ア芝居もうんぢ入。「ヲヤ」のうう物ヨさ。
「ヲヤ」「ヲヤ」「ヲヤ」「ヲヤ」
仲さんのお下の時おめさア「ヲヤ」おへらも移ヨも降ヨ面長くう下ると
毎日めまアだ「ヲヤ」まででもおめへ「ヲヤ」下さまでもおやへの世話
「ヲヤ」「ヲヤ」「ヲヤ」「ヲヤ」
あやアうう移ヨ「ヲヤ」考て垂下ハ「ヲヤ」ぢ入。新さんと亀さんと平さんと
三人で高番と三津五郎と半四郎のおやをまさアおのの。
おのうおさまの内の際までの傘を持てギックリとあらんざらの。
亀公めエどョんと流くさア。帰さうな顔をまさうけうの。おそ
さんが強へく。高番さとうふ「ヲヤ」移くとまさ

りんざう等ハ人ゆきこゝ仁のゝア喧嘩ゆめエ〳〵狭さんや是ぢ
ゃ。おまへおよしなさいトいまへなどもの内でもものもちのうつくしいおまへ
幸さんおうこゞけ。どりうァ能のう。豊国の絵ぞ。威勢が能ぜ
なァ又ゞ〳〵ゞ仁源之助へ能くまつこのう。おのらが不おやァの。
喧ぐの。源之助ゞ景買ぐざうのう。お登安へもの上方へもの。源
之助の絵斗買てよろこのの〳〵ござ〳〵ゝ人ゆきをする
ゝ人の都へ噂をかけるゝ悪い〳〵媚忍ぶ能くな。おりへも
聴ゞが臭ドやァ行くゝ是ァ窓ごまぐざうおゝ仁源之助。
こゝ鼻の下ゞまゝ赤ざァ〳〵是も虫のせいざァ。おのゝこれおりへの
ゝ中おんな〳〵おへ〳〵サアおりへ出ゞ〳〵ねへ〳〵今夜
ゝ中の能ゆふ油絞ゝ〳〵。服ゝ大の字親のあるゆふ松三
本フゥ。フゥ。フゥコウ亀さん仁本を香るうのおのゝも役おゝてん
ゆへなト合巻の表ざうしをあそびもふかる〳〵ゝ亀〳〵おへ〳〵
仁のふならァ。仁木弾正でせう出〳〵の。幸さん仁国十

ゐが男之助で、「縁の下ゝゝ出る有ぢゃ。ゐゝゝ、其の時、嵐ふるんで巻物を咥て出さう」「ゐらゐらや。夫ぢや、幸さんお扇で扇れるのぢゃ。ゐゝゝゝ

ハイ宿六を居ますと　酔　びん頭盧の後向取をする安うふ。
ちやちやちやちこだらて。ナゼ。高い不ふ居る　酔　トとうしるだ
をりく寺をだてる　酔　湯舟の番頭ぢる　ハイ　千遠ねる番頭。
名ハ何とふ。名ハ番吉ろ。番吉三津五郎ろ。おれが目ハ
ハッだろう不見えるろう。お番吉六ッ五郎ざらう。湯へいらざ。
十文ト　やぶられを出しなぐ〳〵ナンダぬが四文。ム奴が四文。坊主へいろざ。
野郎ダ十文。奴ぶ四文でハ。坊主へ只入れろう。エ。番吉。どく。
どうざよ。　ハイ　ハイ　ハイ　ハイ　ハイ奴が四文じやござりませぬ。ねろ

四文でござりますと　酔　ム何の糠四文ろ。ヲ。コレ糠の字をアきんで書ば。
奴と讀ハ。糠ろう糠の字ろ不ふ。催ものろ不出け。奴とろ字
ハようで書くと糸賞奴下てて書くと刷下奴と讀む。番吉ろ。
私ろ　ハイ存ませぬ　酔　まろざァ宿して呑る。十二カ其糠代ろも
入て四文ろ　ハイエ糠でろうで四文でござりますと　ム糠代ろ　ハイ
酔　ム夫ぢハ。ダイ　酔　糠代番吉代が四文と。賣てあるけべらく
トつこんなぢナンダあれハ茶の看板ろ　ハイさやうでござりますと　酔　くく
欲ござるま　ハイ　酔　湯でござりろ　ハイ徒方ろ　久食るハろ　ハイ



まって伝授 弘 さーまさ〳〵〳〵〳〵

コレ。番頭。賣物でハあるまいがせめて半ふ賣てくれねふ「ハテとそさ
聞ちがひ。あれハ人形をと申て人でござりまさ「サ人へがつてんざ
「イエサ此方でハりさるね。他不でさ「ハテ扨ふくふふ
買ふ。さふねせふが盖ふろものふ「イエサ毛ふをさる盲人で
ござりまを「ハテ此番頭ハ何を云つてよ。てめへどうも男ざ。ヌくをきのろくろる。アノ
あちらへ行ざ「ハテ讀ませ。おもしろふござりまさ「そ解毒丸ふ
「イヤおれハ落咄でござりまさ「ハテしろくさ物を賣ふ眼
くそがとる。道理で高い不くまと「ア。あるく。
あの薬ふ半分で。どうもふ行くゲイフウ。番頭ゲイフウア酔さく。
あのア。夜なへの甘茶とふ物ハ。何を垂ても買ねばならぬね。
今度ハ賣まつと云ても買ふ「ヲんでござりまを「ア。あれ。
あれく。ア。夜なへの茶「ヘエ。さまざま。
夜なりでござりまと「夜なりでござりまと「寐小便の茶でござり
まをとうく「そふや十二文ふる。これで糠を

まけあれ。シテ。毎月新へのをかして。ちやあれ。ぬか
一風呂。イヤどうこへナ。コレ番頭。おれが草履へ長カだらうが
縄ぞうらが。履違へられてハさうだぞ。若違へたら其代は。
裏付をとるぞ。番頭。まをかけ。ト二のかぢを上がりかゝる
二階へ貸切でござりまさ。どうぞ下ゟ統成て下さりまし
一番呼。コレ。お客へいろ〳〵のるをとらふの。何処でも二階へ脱ぐゟ
貸切とへどうど。三百六十日昼夜十二時が間。飯も食ねど
女ぼうも呑ぬ。宿元の用もも足さぬふ。二階を借切て。
湯へぜう這入て居る者があるう。出せ。おれが
草履をふまるの。借切と奴があんべ不存者ぢおれが利害ゟ
説て聞せる。イヤ。貸切とふ訳ハ。店向の地方ぐ小戸。棚
を皆貸てござりまさう。お脱なさる場がござりませねゝ
おまへさまへ聞分のゐるへ。世話を焼ねく
ゐれも聞分のゐるへ。世話を焼るお方ぐ。一番呼。ゝ
一イヤサ。店向でも構ハぬでも。おれが着物をおれが脱で。おれが
草履をおれが揃て。おれが湯へ這入れべおれが借ぐ。湯へその

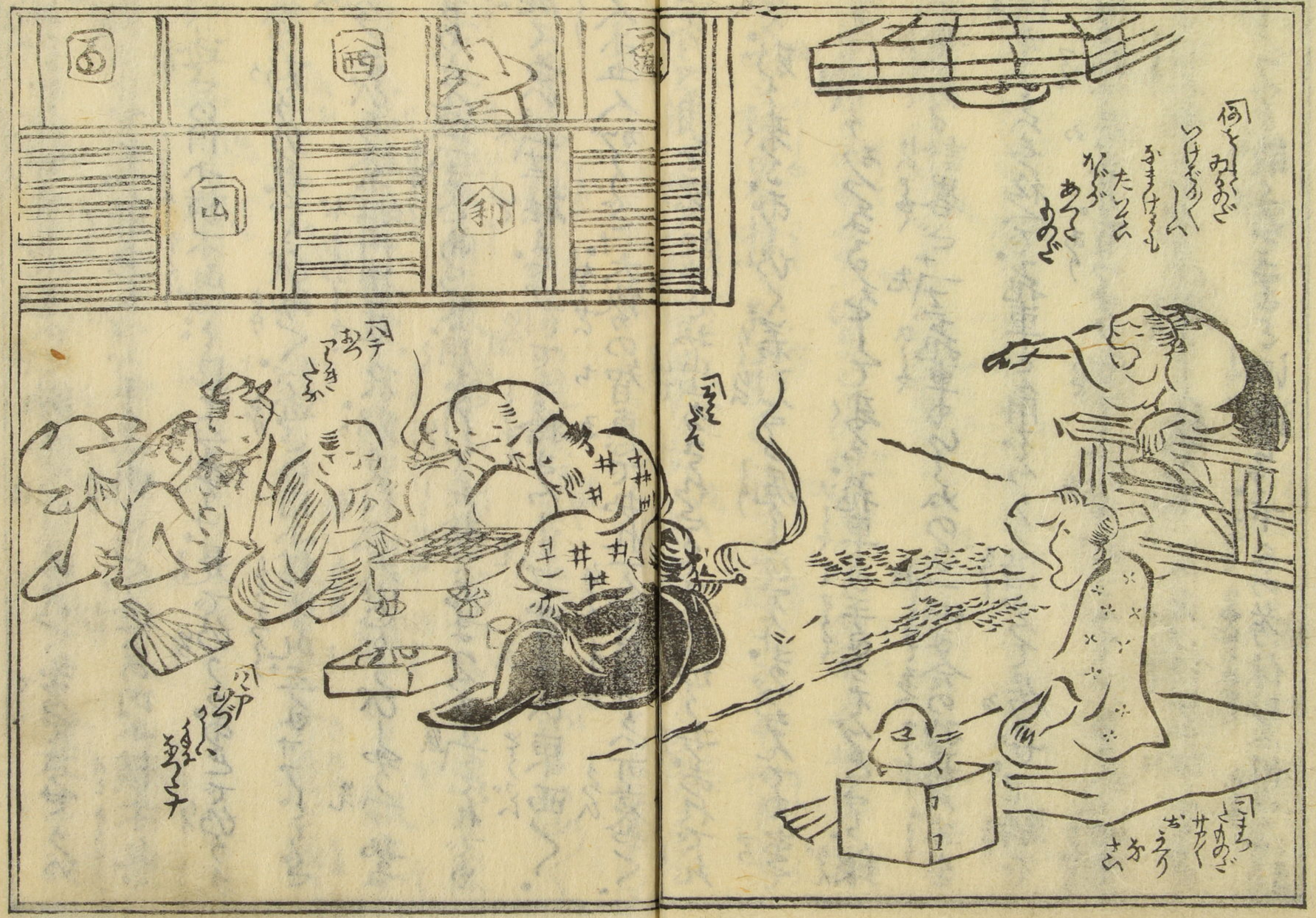
方の物錢いろれぶ物ごゃら。湯へ入さ迄で。借切の者が兎の角の
いろ〳〵體の湯の氣をさまして物さ。其時湯錢をも。おれ
ふ物〳〵それま。ナント。是わどつるるへあるまへ。行ざおとこふ
居る奴わぐあれを見て笑ある。不届る奴ざ。行がありへ。ヤイ。
そこへよく對るふるる。うせねろあのれ▲二人のおんとうみて
是〳〵ろ上りなさろまー。なま跡やりて。ナンダ。これいろんざ。正体をあら
はせろ。ハイ私わ二階の番をいさせ着でござろまさ。そ二階の番
ハイ。番へ番代まで功を經移へのござ。よーく。さう聞けべ
課忍るござア番代下の男のやろふつくらぬ男もあへ物ざト二人のとろ二人の戸
ばそこへツーの衣裝棚をあ戸は紙をろて宅へくの
ろつーをあ付ありるあ。あのへさまのろくろ見ーて。コレ番代おのざ呑りのへ
ろんざ。ハイ。香奠でござろまさ。ムム八人逸でへろへ。イエさやうな
のでへござりませね。ム。錢をとるイエこれへ賣物でへござり
ませね私わ茶ぶ嬶ござろこれ紙ねぐまさこれへ私ざ。
たべる物でござりまさ。それでおもちなのさ一ぬのをそれつけを
あてろ。ゲイッ。ア。ペッ。ペッ。ペッ

ハイ〳〵（酔）碌々（ろく〳〵）番頭（ばんとう）ハイどうござりまする（酔）ヲヲ番頭
何（なん）ぞまさうな物（もの）をうふの。それへるんぢゃ（ハイ）あまうさうらう
まさう。昼（ひる）をだの目（め）ざめ一ぱい買（かう）てたべまして（酔）今昼（ひる）さがりの目
ざめう。それも目（め）をさまし一たへの。竹（たけ）の皮（かは）ばかんで。やコレ。番頭（ばんとう）
ぬし一買（かう）さらうがナント。それもおもしろからうがの。人（ひと）ふえせそ
だうへおりんぬりのぞて（ハイ）これへたべけで。さござうござり
まする（酔）十二サどいぶん苦（く）くるへテ。これへるんとうよりのぢ（ハイ）主（しう）へ
おしらせ（酔）今お市（いち）るう饅頭（まんぢう）でありまうが
なりめア（酔）ヲ碌々（ろく〳〵）ても能（よ）いの（ハイ）ヤモそんなるお粗末（そまつ）をお上（あが）け
なもるてへ（手）ぜひるいうおの一ぢ喰（くい）物をおれがいぢくとそおの一ふ
買（かう）もあるまいぞざ不及（およばね）サテト。そんなもうるをするて。まさ
外（ほか）のをのぞろて又（また）るうへ能（よ）いらう。コレ番頭（ばんとう）モウ一盃（いつぱい）ちや
ま（ハイ）ハイトかうぢゃ（酔）ヲヲそうよせる湯（ゆ）なのくく糖（あめ）をのぞろて其（その）
指（ゆび）をるうてへ又各別（かくべつ）能（よ）の番頭（ばんとう）此（この）湯（ゆ）の中（なか）へ入（いれ）と物（もの）が其（その）菓子
の砕（くだ）けて彩（いろ）どらうま（イエ）くと丈（だけ）へ香気（こうき）でござりまと（酔）ムイ不（ふ）通（つう）
てまう（ハイ）まへるまくさる買（かう）求（もと）まと（酔）ムイ銭（ぜに）を出（だ）しとう。ハテ
酔（よひ）碌（ろく）ぢや能（よく）

ハイ番頭「ハイトお客を呼ぶ」一盃呑れ面倒るゝ其の葉鑓と彩の
て筒を突衣「貸れ・れゲ氣色を呑う酔醒ゆへ能い番頭湯上りふ
呑でも銭が入らねう「ハイ」まづもう一風呂這入て又湯上りふ呑ふ。
やつトヨカまづ是も脱でと。番頭・あのあと角力れの灸の蓋のやうふ
紙をもらさう・あの戸棚へ行ご「あれが貸切の戸棚でございます。
あの紙ふもしへ店方の印でございまも「ムあの小さる戸棚
小人が這入て居るう「イエ衣装戸棚でございまも「おれらまさ。
借切と奴ゲ済くでも居るとゝろくこ畳へ貸切でありまへ
ねハイさやう「銭入るまのいる「ハイ「それでは」トゲイ「ドリヤ一風呂
番頭めて来て呑う酔醒ゆへ能い「トおくをひろく ▲とりてゆく
着ゲ来さの・生酔でも裡ゲ有こめんど・ウウ番公源四郎さん寺
妙ゑ奴ごゑ「さやうさ・先刻ゑうゑ傍で呂を出しゑこゑこゲ・喧嘩
おろゑて悪心と目を長くして居まくこ「イヤ公やあそれこお
人さゑ「ヤ傘屋の六兵衛吾源さん「ヤ源「ムやくまの
どくる「金兵衛湯さんおまへもおのでなこゑごらう「久しい馴染
だくう供ふ立ませう・葉礼へ習の仁時ごゑ「あゝこ四で

でござりまするせう。遠いお事ござ〳〵ア方角へ立〳〵目黒の蜻蛉不所
ござりまするまで十五六丁あると聞ました〳〵や丈夫なお人〳〵ござもござ
ります〳〵四つと云て四半九分もかゝるが遅くても早く出ござらう〳〵さやうさ
ござりまする併葬礼はなるたけ近くても一日の遅さ。ほうがよござりまする。行の用も
達ぬやうさ〳〵さやうく。ア悪い方角ざる。二日がけの葬礼ア
出来ませう〳〵く負ござらそ〳〵六条兵湊さんも能老人ござ。息
子さんもよく教ござまして。比皆大丈夫ござる。娘さんもござ〳〵ござ。モシ
孫も五六人ある。今生きれば孫のさ。あの金兵衛
い内苦労しござる。老て楽をさせてやる〳〵ア今の若者は老てやる〳〵苦
労さする。身持が大きふおべござ。ア久〳〵の勘次ざけ。南無
あさござぶつ。アヽアさむあさござぶつ。又へぞれ基ともが。蝿のた
ろこかうふ初ての▲入六人あるまでをは太吉横町の草国乃出なさ
い。又まけやうと思つて〳〵十二け亡氏旨れ基あり。太吉ござア。一番糖を
舐ぶらせると。本気で勝こつもりで居る〳〵ア〳〵そんなら〳〵氏次
で教てやらう〳〵屎でもくんべの圍扇ざ。ざらくのやうで。サアそ
五ノ節句ホ行程よこと。のぞらうそして〳〵ドレく今の次ほどうござ。ア

悪くしくさったナア。局ふろくさァ。先の治郎ざァ
此二と又行くとそこぐ一是でも能よ。勝てえせやうッ「後今飛車
く角二枚渡しくさんぐうう弱ま切ってァ。西落も出ル「飛車
と角でお基指ぬッ。こちへ王を乱ませッそ。王る「そこで合
馬ナ。ヲット待う「先きさ行くお基ぐナァ「後銀を惜いこの桂馬で
ソレそちが王もぐく「先らまくへ「後如ぐ。やっぱり銀ぉてやけべ能
のよ一ニン如ゐを指てナ。サァ近ろく。能ろく。逃ニナ。そこで行をナ
てやろうな。やはり一向角を突込めと「先角を突込めとも出るまろ
ろう。ナニ「後角を突込めとお山山をさられさくッ。フデト。かうナ。あれでも乱
を奪る計略ぐナ「先飛車もりくさ
ろう。ナニ「後ナァかくまるゐをして来るナ。
ろう。ナニ「後ナァかくまるゐをして来るナ。
倍ぐうさくも行くで。飛車と角だろう惜ぐて居るぜ。コレ駒で
かゐを抓で居ぐと。有ウちゃ「先ナ「今だまってえるさへッ。汝ぐ
ろ。ホホあうぐぐ。サア早くし行くり。下ゐの考休むホ似うりぐ
「後ナンちゃと能ゐをさゝと洒落らァ。下ゐの考休むホ似うべりと



此十言先て好ざでツレと来へ〳〵や名乗つ
れてさせくゝ能るく・ソリや王る・やア迚さく・迚の内ふ横木乱ッ
イや迚さの内ふ横木乱ッ・こうして〳〵是でもうう・あゝでもうう・
まづ好うもけ・やきび助く〳〵や迚さの内ふ横木乱王るサアどうぞ
ハテきびきゝふ牡丹唐草うい好うう〳〵く・天窓うぴー男う〳〵ア智
まわぐん仏まざあるく角をうて〳〵それでも
捨てもまろー〳〵それでも
捨くるへテ土袋よ・マア〳〵てゝ捨さろー〳〵てやまふ東西く・
一人ふ五人がうぐ十・大物の智恵でおれ一人ふ肩るう〳〵可哀やく・

我指さうゝリや又王るゝソレうさうさ
とゝもく移く待て呉ともいれまの
王ぶ三枚五枚車角六枚おゝぐ
内ふも・香桂前ふろぐ・金角
分や・二歩へあるゝのいる滝〳〵この
りく移く〳〵ム盤でだう指ぶり・
猿上ゝや入王とさせまへとおうちる
をいぐ名女郎名と〳〵ア惜い成金を名れ

基ぐち仏ぐへマ是ぞそわ基ぐ我後
これぐへ空ふ居ぐこのご。そんるぐ仕香でひ金をれらろ。わろへ
迎め人「ナダ。どうまるのご。二三ふるろこうを仕亜とぜくぜ方の駒
まで動ーて。大きふお世俗なるこ。二人で両方指をの。アレ他ねる
さへあの通りご若厭掛のお墨ぐまでは。ろ。仔でも
仏のふ通りふーてやらァ。わう室まの結お基ごねを名人ぐてナ。
こ。ぐへ引ぐれんげの皮賊布と責るご「おろふ責ふせさナ。待
よ。ふ文が思案のあぐや先ッ八手宝が思あ栗のあぐや先ッ責ら

れぐふキー辟易ぐてハテ。こらへキー辟易仕るて。二人お責あさろうのお
まぐぐろも精出ーてお責なさろグ身のお勤ッ「勤とのふ字ま二ッふへ。
テンーてそぐへ迎ちやァ撰ぐ其隣へ迎てもご駒を書へせるの「能
ぐロお出とナ「ア能ふぐあるッ。能ろてあれぐ大掛もあり安とロ「ム
ム目ご暗で居るろうえ松へ「おまろてらこだれ行おもり書ッ
行おもり書人でるのハッ「ア何おもり書人でるのハッ「おまろてらこだれ行おもり書ッ
空ぐへ通ろ「アるぐへそうぐ迎ちやァを入松へ「とひろご「アえ
やらまろせろこト「ア。そんせろまろせろ

さつ〳〵そこゞ由引(ゆうそ先)て行(ゆ)きまもなく人でんるのへ(板)「ヤ人でんるのへヤと
ゐる「能(よく)く(先)「ゐりや行(ゆ)きまもなく人でんるのへヤと雪隠(せんちん)へお出(で)なさう
又(板)「臭(くさ)のこ「のまくしへ。こうく雪隠(せんちん)へ「やうとんるのへ(原)「ドルくゐれご敵(てき)を
ゐる(太)「ゐれご出(で)る(原)「てゝ待(まち)つ〳〵「又へがやらご金銀(きんぎん)でもおろう
ゐるへ。エヘン▲生(なま)まのかうぬ内(うち)うがお吉(きち)へ行(ゆ)をして居(を)るのトのなう
をよう「ゴレ太吉(たきち)やけまへ行(ゆ)をして居(を)るナ。父(とう)ざんご待(ま)つをおりけて。
今(こん)ばんう店(みせ)へひなさろてお(ゐ)ーご(ゐ)ゐるのを待(ま)て居(を)なさへナ。先(まづ)
初(そめ)うう香(こう)を長(なが)くして。もウゆるうと思(おも)ふ再(ふたゝ)び三宝(さんぽう)
ゐるのえトや私(わし)〳〵とろざんごぞれ出(で)〳〵なさるごらうとおうて
ぶくとおて居(を)るふまに思(おも)ひ寄(よ)りもない紙(かみ)ぜんごぞ。飯(めし)を食(く)て拵(こしら)
を突出(つきだ)ととこもウおう。湯(ゆ)へ行(ゆ)ときうう(きうう)おうて。
思(おも)へ廿三の四のと年(とし)ざゃうおうて。おれふ世話(せわ)だっう母(はゝ)のせて世(よ)が
世(よ)のう嫁(よめ)ふ於普(おふ)そ親(おや)を名(な)のかうふまごごと時(とき)ぶご。世間(せけん)の息(むす)
子(こ)さんごをえをこご雑物(ざつぶつ)のーご(ゐ)ゐふうぬうぬて遊(あそ)んでおうく者(もの)へ。
又一人(ひとり)とおうやアー私(わし)ふ。ゐる内(うち)うがお吉(きち)へ例(れい)が
私(わし)〳〵えこでも私(わし)〳〵お基(もとい)をさして飯(めし)のくうおうるおごふうれご能(よく)

くれど、我のしが安う売る物あれを安
とげてこのご彼へくら年くら石垣今ま
まのろさご能我のしが安う売る者へ万一ホ飽いぽくて、何を一ツ
あそこのづくろ恩恵イヲ井、のうるごるこも我やくまーからうが、可愛くも
ちんともござりません、ホンニちえ私くまのまそう者で、おらってまり
ますせん、あれがお二階で、私が不調ほろさまふとうれまま私
ご路ふまのり日向ホまり、して、ところさまのお伝えくろって、
それまでさ人常不調ちくぢりまと人との子者へ、何ぞれ角そ不取
得のあろんでござりまとう、あれ不限ちそ、第のもで実さ程もござ
アまません、私ホ仰彼今よへ鬼まと争うで、ろっさるご曲つるの媚な
人ごのふ、あんまるを指すこう世間のくさるホ私が面目次第も
彼へおまへごこのおでのよへ悪いが、全体友が悪いのうさ、折角内ホ
任てをして居る者まで、追出しホ未てまりません、ろごまのおまきを
とろぞ他人のまのうごうちむ、恩恵の有のまくあやこごろうてまを市きろ
うごうのふご井あやたるりのかるたごれへ四五日も内ホ居る
かうやくのうくとしことろと又へかけ出し、又へかけ出しまて女の
世の世う、乾さ、ちくあんホ命も精もほぐくりくどや彼へ、

あてるも彼(太吉)今(ゆら)ァナ(ク)今(ゆら)ァ彼(ク)(ゆら)ァナ(ク)彼(ク)(ゆら)ァナ(ク)彼(ク)(ゆら)ァナ(ク)

くどころ。あざ弁やせべ弁慶へ。ハ。大将の喜ぶ物。謎多謎を解
きよとべい。そもく真菜板とかけて何と
解とあざ弁やせべ弁慶へ。ハ。だりへ小首かしげ居ろけ
ア。こりゃく思按ず附ころけと。丈へ行ふ心易ー。そもく真菜板と
かけて。俵藤太秀郷と解まさる。其心へまんぢゅうでかな
うねと解ころ。佐大将我折果ぢよこりや又弁慶へ日本一の謎
解の名人ぢとよころとびらえで八島の浦へ着ふり扨いさ八島の早。
でござもちあく起ワこア。宮ふ西塔の武蔵坊弁慶柄も四尺刀。

あらせて八人の長刀をふりまわすとう。傍あろうの鼻ぐあぶ裂、
でをさへいもやア長刀ア打廻ろ。ハ。ぱん出ろ。巾着ろ。ぱん
出ろ。いもやア。笑来ろ。首斬べい。あざ弁やせべ平家の軍勢
そら弁慶が怒ころで。脇の下へ。来頂く頸の上へ。方歳。
逃まふるを真額梨割車斬。あろうを真甲切ろ。ま。ろ。ろ。
らろ。ろもあり。それども怪我いろ。ろ。ろ。引ゴリやたまらねと軍
勢ども。そこらあろうの鉄を拾って継ぐ。ぶ。腮のかけをべ
かろへ縛ぐ。ぐ。のかけをべ腮へ縛ぐ。ぐ。あろかり切ろも

あり・かく〳〵髭の生るもあり・あらめ
のやぐどのとげをおさまのどんのくぐ・ぐんづらねのちげ・是ゆへ
行ぐよかんべへバテ臑豆腐の黒焼ぐよんべのとぞくろろる・中暑
御代もかさ糸一方ぐ崇貴賤上下ちーちべて感ぜね者こそ
なろうくと▲風呂の中もそやヤンヤくと▲ざこの坊かんがよのどりふ不をぎまん
らちぐろふ
くるまりうんのろろの盲人をだるの中くもものひ
出ろまりうへ人のふあけふ湯をろんでおじ板の上をおほでおーおぐろゆくと
ふろろ出てる盲人あさまをろちり アイタ〳〵ヲいろさ
めろ〳〵
盲めヲヤとのろへコぐ方ろうぐろ法けてちらてふるまを先へ
ぬうーまるおのれとそ明盲ざろ一イヤものれが明盲ざろ一イヤおれが
祢ぐろて居る盲ざ一イヤあれも祢ぐろてみる盲ざ一又口ま祢を去
をろろ盲とあるどろて一ハテナ・そふろ声へ聞さやうる声ざ一ムちる
ろうぐ・つーもやみさやうぐ一ホんぴ一ハテ柿の坊でへござろぬ一いまも
貴公へ栗の坊でへござろぬう一イヤこれかく一彼ホ其後へうち
たえまろ〳〵一別以来まぐくお達者で一桃栗勾當の坊でへ
の不でお目ふかろさまく・てうござ三年ぶりまと一さやうる
拙くかやうる鹿相がありべおたぐのふとれ遠てもりませぬ・

おつぶりへ痛ませねう「イエ仔ともで
「イヤぞんど痛もござらぬ。併疾沢同士鉢合をして。ヲット祝ぶ
一ツそうとふ古い咄があつてナ「ヲヲ柚の初湯をそれる
者でへちへう「今そこへ汲でまをこ「そこあへう「ハテめんようま
あらこと今汲ぶのう。ぬるあどとるへ「トヌ一ぱいそんで。そぶくおくこと。
そうこそこそくさこのはそもきこぶ。さへぜんのうあひぜんのおけを
とんどのおりけをも。そうとかこよをそおく「まぶ
「こあへちへ「又うへのコリヤお舟へのう貴公はうそそえるふ
のぶんいう「仔をとふぞへまぶこうひもせんりの。ハテめんようま

「今めんようま。ドヌ一ワうんでうつ。そさま舟
とうとうとるるをまうオきまを谷「ヨリやまて。湯をかくと妖をはう
まつこよ「ふ内さま舟のをまうオきまを谷「おのれふとへ安ぶ。宝あう仔ぶへ
がうふおのうがう。良おこうて「おのれ
湯を考うこうもれね「コサくおれぶうぶこサ「土柚の初う「サおれぶよコサ
おれぶ今汲んで来こ不のるぶうる「ハテめんようま「ハテめんようま
ホヌ小桶を「どこへ汲で来こ「コこへ。ヤ「下レどふ「ヲ。ろこ今汲で来ぶ。
今ておんおうま「今めんようま「郎「コ貴さまこふ湯を進ぜよう。ハテとる
いこぶうをもるおちがあるへ。サアこれ汲そぶトいぶんの小おけ四つ五つ「ハイ
とれおうこぶうをもる「これくあうぶへ。

ゃんがござろうまさとナトあのれがくぐゃかろぐ〳〵こさるさらへ
ろうたへをのがる
あぜ目がほぐれる〳〵疳の蟲でござりまさと〳〵ムまろちど夏へ虫干をする
うち土用の虫がるへが寒の虫へ誰も干さねてナぜ〳〵ろうまろちど〳〵イヤ寒の
虫へ誰も干さねて〳〵それへ何のるでござりまさと〳〵寒の虫よ〳〵エこれへ
ござれ疳とやて〳〵いろくの疳の病でござる〳〵ア病がいろくの借の病ござて
高が五貫でろうまろ一両も足らねるぞ。丈がちんの目薬金ざ
〳〵今ころへ合点ぢ〳〵イヤ何も笑ふるへイヤコレそもくのお方ぢ
ざのも借の病ぢ〳〵イエ私へ疳毒でござりまさと〳〵疳毒ぢへ何ござへ
イヤ何も笑ふるろへ疳毒ぢろの芋堀とらふろ〳〵ろうれざとへ〳〵
ろうそんな物でござりまさと〳〵丈夫ぢへ能療治がある〳〵イ何をちぐ
まさと〳〵イヤサ療治がある医者がありてさ〳〵ア毎日箱を擔って
呼であろくろへ〳〵エちんでござる〳〵あれをちくぬう〳〵まざ在まさね
〳〵下疳疳毒治〳〵〳〵〳〵もく〳〵貴さるさちへ三百六十日目を
臥て居るくら。ねぶさくへあるまへる〳〵目を塞で居ても心へ
寐ませねくらやり寐る時へ寐ませまとて。食を食らぼちへ居らね道理でござる〳〵るるわど是へその

笠ござ・そちこちの人へ大ぐら赤く湯出いさ・無祝なござ・蛸おさろく直ぐのある頸ござ・ござ・こちこちのお産ぢへ白産ぢへ黒産ぢへ寒の虫で盲さ人へ氷産ぢへとれまで産ぢへもさえさが赤産ぢへ珍らしへの〳〵私へ小豆ホ交ぜで
ござりまと〳〵そりく〳〵こ貴公も瘡毒う〳〵ア麻疹ぐ目へそりまして〳〵ア麻疹・ハテとんざ物ぐ目へそりござの・そらる時ホ何とぞそりひまくさう〳〵イエ仔ともヤまませね〳〵テぞんざいるあざ大切の目へそりまがら安内するホ無作法るあざナ・まざこの麻疹で仕ホ産後ぐ目へそりてこ咳寝るさらう目へそりてこ眼病でありさる〳〵イ〳〵ハテ扱きのどくな・目へ入間の眼ざ人の眼ときる目へそりて・眼病ホあるてこホ盲ホするえざござト・ホ折〳〵ひろの人ときてあそまる湯をあびるとえの〳〵ひ
すぐ立てゐて・え私をりけこ・まざこあるく・ヤイこちくの男・十ぜころんでろをあびせる〳〵ハれ免なさへござ・ござ・ござ・

索麺と思ふ「ハヽヽ」「イヤ笑ふなあろうくちんぞ・人がみをかけて是がわんの水ケ倫ご・二人ながらあの蔵ご鼠（ハヽヽ）落こぼし不十分ご濡ごア喧嘩の對手が欲うてござ・漸く待て居ろ・ニレ番ぢ・先刻うのるて二人一時ぶ出来さ・そりの支ぶ筑を貸セ・湯の中を探して見さう・ウアア痛ぐ・ろう今の二人逃るな・おグーてい番頭對手ござ・今見あとどうさとるうト「ア痛ぐ・ろうあがってひのろくろくろく

おてちんこうぐうんこを踏ぎゃうな面で通さァな・む無
面目も程があらァ・行燈の鉤縄へ引かゝこと野暮。
水心もあるく私ア泡ア吹ア・コレヤイ・六十六部ゐ立山の話を
聞ア志ろ人ー・あこあっちあどうくふりんこ石菖鉢
の目高ゐ・支躰相應ゐ子子をおろかけてりやァまごも
ぐゐ鯨や鮪を呑ろとゐ大そ・それ芥子之助ざァ・堀抜の
足代へ家鴨が登らうとゐざるでおれふれてかゝこのの
ぐ胸厚ざ一寸まあ能ろ筒をなさへ仕ゐんざ。

家鴨ざあ・あ家鴨とゐ・ゐんのるざ二土どうしてと(ヲテヲ一ヨ)ゐ
うも生酔の癖ゐ志ろっこいろぐざァ。だまろって居る女(ヲ一ヨ)生酔
ゐんぐろう生酔ざ・おろァ酔ゐ志ろ・コレ酔ゐァ志ろ人ぐそ・酔ろて思
ろうゐんのるこァ當ゞ遠よぞ・ゐんのるこァ(ヨ)エ生酔ぐろうふ
せうをらァエ。もるゐやァ・とろろふ強らぐくざァ(ヲ一ヨ)て面白い
ね。ゐんのるこァゐんのるこァ
さゞ又ゐんのるこアコレヤイ。ね。張ってくそ・そろ・そろ・ゐんの
るこが又ゐんのるこアトニろんきんあやつアのざくそのくせふ目を

下之巻四葉
北川美丸画

さうえんでおりる也　ハテ　あれを
ぜめてゐるる　ハテ　あれ
てゐるうかんみんてせんなせ
くこが私ト　ちぐこちてくくてくの生酔
きすのをさぜてゐりてくれ出てまと門ト口まで
粘食く　十すきんぐ　ぶとっと
ぶれ。あれ。がくわんどうる。
酔やァおく私くぞ。あんのるこ。
のるこァあこ大風の吹さ
のうちのごとく　▲　や大丈夫さんけろへ
や五ふ辺ナト芝居の引まくを私まぬぐふとさるとこ
うとりふな田舎ごまのえけ
あんぶんでる私りとうこととと
義遊さんモウ　お上るろ。ゆべへる
太夫が石を拾てくれる。酒客わが。紙治の茶屋場を
出てれで塩町のまで語て。久しぶりの石町をさろ
紅梅服の二ツ胴をそろ出させ
せる法りであこさが。赤助ぐらゐふへ。ぬろぜう音十郎衆
秘言古こと。先斗町が口はべて大丈夫ごとりのろ。仮橋を
出こと　大夫　ハァ一本鎗ごヤナ音章

おまへの浄玻璃へかちなる住さんの性根で押てけるされ。
それが徳ど。見物の請ぐ能て一割役るの「イマ又悪
べも浪花が例の鍋屋で中二階を張るさい。的かる
潜人ぢやるどをとゝ豊竹麓太夫のこそを浄ちりのこそをかけ
潜上をいふ詞。浄ちりの「大せんまんど。東へ持来もよされど。的
潜人なるべー。方言ど
やいあるり仰山るるゝ豊竹越前掾の芝右大夫駒大夫の二ぶをを
東とりふ竹本筑後掾の方政大夫住大夫のこぶい
を西とりふりまるーうるへるまいテ。ちんまの東口とふりのゝ。
まぐくあのやうな物ぢやうまい白湯さまへどうぢやさ
「例の通て白湯と鼻をおむ音をりさせおりて。床
の内で味ざうひだりーそけっる「あの人の語るとゝ
あの人を床ゝう出ーて聞人ゆーて聞せさい。自由ぶな、
らねりんぢや「立會へまぐさ「秘音古が出ると残てある。
まぐさまア今やそこちの支方
お出なされ「我ー「法事へとそるうの「出るとお出ざるい
「ア「あいつも古い下るふけ
床へまのとをとこえをゝうこ味せん ひきふりっをのあそびれさく人ホヨる
ゝちをいふ声のひびくもるつぐあも紙まぐーて

くるされどもゆや浄るり
の三のさんくろう▲「さのふ大阪汀多く参りこがやまへ
そく次ゆり小羽田の弁天へ旦ツて大森の橋の際へ出さが
くこびれたてこゐ「金」ライ金ゑ久〳〵
たろー「今」そんな安いンドや行く是でも大体銭をかけて
習ひさのさア潮来をさらふとて毎日六七十ヅヽ銭を
はたくさア「金」何ホたふ「金」見あきて
翌ハ朽屋のさらへがあらア「茶屋ゝ「今」〳〵湯の中
でさらつて.それ〳〵弾合ざア「金」ヲやるんざう
「金」たまり〳〵行く「金」ヲやるんざう
女湯の方で大きな声をしてまちやべるぜへ「新道の
藝者の内の婆さんざらう「金」番ぢのひさで聞くう
「金」こりアおりれく
来曲頭曰
男湯の残剛女湯の光景おうつる
さるぐあるどもの編の紙数僅ろ
べ出たく〳〵ぐく後編ホおろ〳〵ぬ
ふかけまさる女湯のまもうおりろく
出来のう〳〵来春出板を皆さるが
めでたく
口まつの内早仕舞

# 浮世風呂五編来午春開板

文化五年戊辰季秋九月脱稿
同　六年巳巳孟春正月發兌
文政三年庚辰仲冬十一月再補刻

江戸橋四日市
江戸書舗　新シ橋　上總屋利兵衛
富松町
丹後屋伊兵衛

